

## TS（トータル・サティスファクション）を目指して⑱

**「人間、自分に本当の自信がないと、謙虚になれない。」**

校長室担当より

今年度から学校教育目標を変更しました。児童生徒も教職員も同じ目標に向かって進んでまいります。それは、「出逢いに感謝し、自他を大切にしながら、学び続ける人間力を育成する。」です。このキーワードは「感謝」「謙虚」「素直」の3つです。最初の「出逢いに感謝」という部分については、人との出逢いだけでなく、自分の思いどおりにいかないこととの出逢いも含まれます。これについては、前回お話ししたとおりです。「感謝」の気持ちをもつことで、考え方を変えていきましょう。今回は、「謙虚」についてお伝えします。

誰しも人間ですから、必ず壁に突き当たることがあります。まさに今の私自身もそうですが、こういう時にこそ「自分はこの壁に出会うことで何を学べと言われているのか」を自分に問うようにしたいものです。これを正しく実践していくために、必ず求められることがあります。それは、自分自身の中に存在する「ちっちゃい自分」と向き合うことです。人間には基本的に、自分の未熟さや欠点、間違いや失敗を認めようとする性質があります。これは、常に自分の存在が脅かされることに対して、恐怖心が根底にあるからです。そのために、これらの自分のできていないことに目を向けて受け止めることができなくなってしまい、責任を求められたときには、「でもあの人にも責任があります。」「もっと早く言ってくれないと・・・。」といった言葉を使うことがあります。これは「自分は間違っていない。自分は悪くない。」と叫んでしまうことと同じです。もっと突き詰めていくと、「自分は変わりたくない。」と心に決めていることとなり、自分自身は結局成長できないままです。

こうした心理は、多かれ少なかれ誰しも持っているものですが、これが強く表に出る人は実は「自信」がない人だと言えます。文化庁長官を務められ、教育学博士で、京都大学名誉教授の河合隼雄さんが次のように語っておられます。

「人間、自分に本当の自信がないと、謙虚になれない。」

自分に本当の自信がないと、我々は謙虚になれずに、結果として思いどおりにならないことを受け入れられず、成長することができなくなります。ますます自信が持てない悪循環となります。その一方で、自分に本当に自信がある人は、思いどおりにならないことを自分の未熟さの表れだと認めることができるため、さらに成長していくことができます。そしてこれは心の奥底での穏やかな自信となり、謙虚な姿勢を身に付けて、再び深い自信を得るという好循環に入っていきます。この差は大きく、今までの教育ではこの部分が軽視されていたと感じています。

そのためには、何か自分の思いどおりにならないことが起こった時に、「感謝」の気持ちをもつこと、そして「ちっちゃい自分」が顔を出した時に、「他者のせいにしてしている限り、自分は成長できない。これは『ちっちゃい自分』を『大きい自分』に育てるチャンス。」と謙虚に捉えることこそが、「成長」であるとともに「自分を大切にすること」であり、「他者を大切にすること」や「自分への本当の自信」へつながっていきます。すぐにはできるようにならないかもしれませんが、教育の最前線にある私たちがモデルとして、少しずつ日常生活の中でこれを実践して、子どもたちに示していきましょう。いい学校を創りましょう、一緒に。(令和4年5月2日)

#### 本校教職員として目指す方向性（確認）

※令和3年4月1日にお願したこと

- 1 トータル・サティスファクションの実現
- 2 学びに向かう力をもつモデルを率先垂範
- 3 対話とパートナーシップに基づく行動
- 4 全教職員で全校の児童生徒を見守るチームの実現
- 5 「今さえ、ここさえ、自分さえよければいい」の考えを戒める